



# 長野県難聴児支援センター

# ニュースレター

平成29年  
第6号



長野県保健・疾病対策課

信州大学医学部附属病院耳鼻咽喉科

いよいよ冬も本番です。連日の雪かきや交通への影響を心配して「げんなり」する大人と、雪だるまや雪合戦に「わくわく」する子どもと。同じ雪を見ながら、思いはさまざまでしょうか。

聴覚障害者の方によく聞かれるのが「雪は『しんしん』という音がするの？」。物語等で使われる表現です。「静かな様子」を含む「しんしん」ですが、擬音のような使われ方に戸惑う方も多いようです。情景や心情を含む日本語の奥深さ。この季節、五感を通してじっくり味わいたいですね。



## 「音を楽しむ」

年末から年始にかけていろいろな「音」に接することが多くありました。「鈴」の音にクリスマスを感じ、「鐘」の音に身が引き締め、そして「琴」の音に晴れやかさを感じます。

音には「その時その場の雰囲気」を強く心に印象付ける働きがありますね。そして、たとえ聞こえに差はあっても、どの子の心にも響くのが音楽だと言われています。嬉しいときにはスキップして、悲しいときにはトボトボ歩く。これもきっと心と体にメロディーがあるからですね。



### 『かたつむりコンサート』のご紹介

◇2017年3月19日(日)

◇開場 14:30 開演 15:00

◇場所；長野市芸術館

◇参加費；1,000円

◇プログラム；

第1部 講演

第2部 物語と音楽

第3部 楽器演奏体験

第4部 難聴者の演奏

◇主催；難聴者音楽感受研究所

共催；信州大学医学部耳鼻咽喉科

そんな『音楽』ですが、嬉しいお知らせをいただきました。「かたつむりコンサート in 長野」のご案内です。このコンサートは、人工内耳や補聴器をしている人たちも一緒に音楽を楽しもうという目的で、難聴者音楽感受研究所により企画されています。

長野での開催という事で、難聴児支援センター長でもある信大附属病院耳鼻科の宇佐美教授が講演され、その後、物語に合わせた音楽をきいたり、楽器演奏を楽しんだりするプログラムになっています。

この機会にいろいろな音楽、楽器、演奏、仲間と触れ合えたらと思います。

小さいお子さまも一緒に「生の音」に触れてみませんか。

※詳しい内容や申し込みは「難聴者音楽感受研究所ホームページ」または、信大病院耳鼻科「チラシ」にて。



## 1月ファミリーセミナー」開催

1月14日(土)ファミリーセミナーを開催しました。記録的な大寒波が日本列島を襲ったこの日。「残念ながら」の欠席連絡を数件いただく中、お集まりいただいたおうちの方々とともに、じっくりと学び合える時間となりました。

講師の北野庸子先生からは、お薦めのおもちゃや絵本をご紹介いただきながら、お話をいただきました。すると、おもちゃの音やプロジェクターの光に誘われた子どもたちも近寄ってきます。てくてく。スクリーンをトントンたたくと、その場で「あっ、きこえたね」とお母さんと一緒にやってみることを促したり、「今のお母さんのことばがけ、良かったよ」と褒められたり。お話を聞くだけでなく、実際に子どもとのかかわりを体験しながらの学習会となりました。

また、『赤ちゃんへの語りかけ方』という資料もいただき、「抑揚豊かに」「赤ちゃんが出した声をまねして」…など、今日からからすぐにできることを具体的にお話しいただき、「子育てエネルギー」をいただくことができました。

普段はなかなか会えないご家族同士が時間を共にし、悩みを共有したり、明日への希望を持ったり、我が子を応援してくれる心強い人に出会ったり。「一人じゃない」を実感できるセミナーです。



## 2月 ファミリーセミナーのご案内

### 先輩ママからの子育て体験談

- 1 日時 平成29年 2月18日(土) 午後1:30~3:00
- 2 場所 長野県難聴児支援センター (松本市旭町庁舎2階『多目的室』)
- 3 講師 **立花 祐子さん** (松本在住 小学5年生Rくんのお母さん)
- 4 内容
  - ・出生から幼児期にかけて(家族の思いと願い)
  - ・幼児期から児童期にかけて(人や学校との連携)等
  - ・「教育、連携」について(療育支援員;丸山)
- 5 参加費 **無料**





## 支援センターより『お薦め&話題の本』

きこえやことばの支援を通して、聴覚障害児教育に携わる方、補聴器を扱う方、訪問先の園や学校などいろいろな方とつながり、さまざまな情報をいただくことがあります。

今回は、いただいた情報の中から、「いいな！」と思った3冊の本をご紹介します。



### 「まんがでよくわかるシリーズ 耳と補聴器」

加我君孝 監修 谷 豊 絵 (学研)

小学校で人気の「よくわかるシリーズ」に、きこえや補聴器に関する内容の一冊が登場しました。「どうして音が聞こえるか」「難聴って何?」「補聴器の機能」など、わかりやすく漫画で描かれています。「補聴器をしている人と話すとき」の配慮点もまとめられていて、難聴児理解の授業の導入としてもお薦めの一冊です。

全国の小学校図書館に配布されています。



### 「淋しいのはアンタだけじゃない」

吉本浩二 著 (小学館)

青年コミック誌「ビッグコミックスペリオール」に掲載されていたものがコミックとして発売されました。「聴覚とは何か」を出発点に、独自の取材をもとにしたドキュメントが描かれていて、佐村河内守氏の取材の様子も描かれています。

きこえにくいとはどういうことなのか、現代社会における問題点は何か、などが描かれています。(1巻販売中)



### 「戦国ベースボール」

いよち真太 作 トリバタケハルヲ 絵 (集英社みらい文庫)

「子どもたちに人気の本です」と小学校の先生より教えていただきました。戦国武将たちが野球チームを作り、個性豊かな面々が活躍するお話。「歴史が苦手」という聴覚障害児がいますが、その理由の一つが「おもしろくない」とのこと。「小耳にはさみにくい」ことが一因かと思います。例えば「ベンケイノナキドコロ」を聞いた事があると、歴史で「武蔵坊弁慶」のことばに「おっ！」と興味がひかれます。そんな「ちょっと知っている」を埋める媒体のひとつになるかなあとと思います。(ちなみに…「真田幸村」は5番セカンド)





## 「テレビをつけっぱなしにしない」～きこえやすい環境～

「この部屋は反響音がきつくて、ちょっと聞きにくいですね」  
 1月のファミリーセミナー会場は、鉄筋で囲まれた会議室。  
 声が「ポワンポワン」と響く感じでした。「補聴器をしていると、  
 こうした音の変化が倍増して感じます」と、講師の先生のお話。  
 「毎日の生活で、音への意識をちょっと高めてみましょう！」

そう言われて思い当たることのひとつに「とりあえずテレビ」  
 というものはないでしょうか？ 朝起きたらピッ！帰ってきたらピッ！

ごはんの時にピッ！「とりあえずテレビ」で隙間を音で埋める生活。こうした流れっぱなしの情報が、  
 音や声に集中する感覚を妨げているかもしれないと思うのです。部屋の中、車の中、「つつい」  
 つけっぱなし。聞き流すことが当たり前になってはいないかどうか。

音を選び、周りの生活音や音声に耳を傾け、聞き流さない生活。そんな中、目的をもってテレビの  
 スイッチをピッ！とできたらいいなあと思います。 ※よい事例などありましたらお寄せください



## みみよい情報

### ◇「メール110番」



事件や事故に遭った際に、警察への通報手段は電話だけ？  
 きこえにくい人やことばが不自由な人のために、携帯やパソコンで110  
 番通報ができるシステム「メール110番」が長野県警に設置されていま  
 す。これまで同様「ファックス110番」も利用できるそうですが、より  
 緊急な場合には有効かもしれませんね。

(健常者の方へのメールアドレス開示はしていないそうです)

※お問い合わせ先；「長野県聴覚障がい者情報センター」まで

## 長野県難聴児支援センター

TEL:0263-34-6588

FAX:0263-34-6589

Mail:mimi@shinshu-u.ac.jp

住所：松本市旭 2-11-30 松本旭町庁舎 2階

支援療育員；丸山秀樹

※ご相談、お問い合わせ等  
 お気軽にご連絡ください

